

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）  
 ライフスタイルに着目した慢性腎臓病（CKD）対策に資する研究  
 令和5年度 分担研究報告書

企業・医療機関向けのCKD患者の治療と仕事の両立支援手法の開発

|             |                               |
|-------------|-------------------------------|
| 研究代表者：中川 直樹 | 国立大学法人旭川医科大学・医学部・准教授          |
| 研究分担者：猪阪 善隆 | 国立大学法人大阪大学・大学院医学系研究科・教授       |
| 研究分担者：柏原 直樹 | 川崎医科大学・医学部・学長付特任教授            |
| 研究分担者：酒井 謙  | 東邦大学・医学部・教授                   |
| 研究分担者：須賀 万智 | 東京慈恵会医科大学・環境保健医学講座・教授         |
| 研究分担者：内田 明子 | 聖隷佐倉市民病院・看護部・総看護部長            |
| 研究分担者：石川 祐一 | 茨城リハビリテーション大学・生活科学部食物健康科学科・教授 |
| 研究分担者：高井 奈美 | 名古屋大学医学部附属病院・看護部・看護師          |
| 研究分担者：水野 智博 | 藤田医科大学・医学部薬物治療情報学・准教授         |

### 研究要旨

慢性腎臓病（CKD）患者（透析患者及び腎移植患者を含む）の特性、治療と就労の両立支援に当たっての留意事項を明示し、CKD患者の両立支援手法の確立により、企業や医療機関が「主治医と産業医の連携」を含めた取り組みを具体的に例示することで、CKD患者の就労支援に繋がる企業・医療機関との連携を促進し、CKD重症化予防にも貢献することを目指す。

#### A. 研究目的

「慢性腎臓病（CKD）における治療と仕事の両立に関する手引き」を作成し、CKD患者の適切な管理によりCKDステージの進行を遅らせ、なるべく長い間、社会参加が可能な状態を維持し、透析患者・腎移植患者の社会参加を可能にするツールとして活用され、CKD患者（透析患者及び腎移植患者を含む）の就労者数増加や復職率向上に寄与することを目指す。

#### B. 研究方法

- ・CKD患者の両立支援に有益な情報を収集し、課題を抽出する。
- ・企業・医療機関に提示する、CKDに関する基礎知識、両立支援に当たっての留意事項の取りまとめを行い、「主治医と産業医の連携」を含めた取り組みが出来るように具体的に例示する。

#### C. 研究結果

以下にマニュアル作成の方向性を示す。

- 1) 基礎編では、CKDの基礎知識や原因、患者数、経過、治療方法などを解説し、さまざまな疾患や病態がCKDを引き起こすことを明記する。CKDの進行は初期には自覚症状がなく、早期発見・治療が重要であることを強調する。
- 2) 両立支援に当たる際の留意事項では、CKDの特徴を踏まえた対応や周囲の対応の工夫、不正確な理解や知識による問題への対応、障害特性に応じた配慮などを示す。さらに、復職後の職場適応やメンタルヘルスについても注意を促す。

3) 事例編では、保存期CKDや血液透析、腹膜透析、腎移植に関する具体的な事例を提示し、それぞれの治療法における労働者の状況や配慮すべきポイントを紹介する。

#### D. 考察

CKDは原疾患や臨床経過が様々であることにより、就労支援においては個別性が高く、情報を一元化して両立支援のスクリーニングが実施できるシステム構築が必要である。また、CKDにおいては、院内に留まらず院外を含めた連携やサポートが必要であり、そのためにも院外の医療機関や関係施設との連携が不可欠である。

この手引きを作成することにより、CKD患者が仕事と治療を両立させるための基礎知識や具体的な対策を提供し、企業や医療機関が適切な支援を行う際の参考になる。

#### E. 結論

企業・医療機関にCKD患者の治療と仕事の両立に必要な情報を提供することで、CKD患者が社会参加継続および復帰を可能にするツールとして活用され、CKD患者が自らの状態を理解し、主体的に治療と就労に取り組むことに繋がり、CKD患者の就労者数増加や復職率向上に寄与することが期待される。また、CKD患者の適切な治療によりCKD重症化予防にも貢献し、透析導入減少にも資することが期待される。

**G. 研究発表**

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況**

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし